大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

女性学研究センター年次報告（2008年度）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田間, 泰子, 伊田, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/12665

女性学研究センター年次報告・2008年度

1．運営体制

所　　長　黒田研二（人間社会学研究科長）
主　　任　田間泰子
副 主 任　伊田久美子
共同研究員　浅井美智子・酒井隆史・福田珠己・村田京子・森岡正博・
　　渡辺博明（人間科学科）、
　　東優子・山中京子（社会福祉学科）、
　　熊安貴美江（総合教育研究機構）
学外研究員　足立眞理子（お茶の水女子大学）、木村涼子（大阪大学）
　　古久保さくら（大阪市立大学）
運 営 委 員　（所長・主任・副主任のほか）
　　秋庭　裕（人間科学科）、ケイン・ケビン（言語文化学科）、
　　児島亜紀子（社会福祉学科）
事 務 職 員　伊藤ゆきこ

2．授業

・大学院科目（人間社会学研究科）

「学際現代人間社会論演習Ⅰ」「同Ⅱ」（半期各2単位。伊田久美子・田間泰子・森岡正博）

「ジェンダー特論1A」「同1B」（半期各2単位。伊田久美子）

「同2A」「同2B」（半期各2単位。田間泰子）

「現代人間社会特殊講義」（半期2単位。木村涼子）

・専門科目（学部科目）

「ジェンダーと社会」（半期2単位。田間泰子）

「ジェンダーとスポーツ」（半期2単位。熊安貴美江）

「ジェンダーと社会思想」（半期2単位。浅井美智子）

「ジェンダーと教育」（半期2単位。堀内真由美）

「ジェンダー論演習Ａ」「同Ｂ」（半期各２単位。伊田久美子、田間泰子）

「ジェンダー論入門」（後期２単位。浅井美智子・伊田久美子・田間泰子）

・教養科目（機構提供科目）

「ジェンダー論への招待」（前期２単位。伊田久美子・熊安貴美江・児島亜紀子・酒井隆史・村田京子）

３．女性学連続講演会・連続セミナー（以下は講演会のタイトル）

第13期『家族の空間／空間のなかの家族 —ジェンダー化される生活空間をめぐって』（６月14日～７月19日）

西川祐子「近代家族の空間 —男の家・女の家・性別のない部屋」

長志珠絵「ロイヤル・ファミリーを考える —近代国民国家形成と皇室」

山田昌弘「戦後家族モデルの盛衰とジェンダー」

影山穂波「同潤会大塚女子アパートにみるジェンダー化された空間」

福田珠己「再現された『生活空間』—ミュージアム・商業施設の現在」

４．女性学研究コロキウム

「文学とジェンダー　19世紀フランス労働者階級と女性作家」

（１月10日。本誌掲載）

「ジョルジュ・サンド『アンドレ』・『オラース』に描かれる19世紀フランス女性労働者たちの空間」

発表者：髙岡尚子（奈良女子大学准教授）

「「パリア」の作家誕生 —労働者階級の作家フロラ・トリスタンの生涯と作品—」

発表者：村田京子（本研究センター研究員）

５．国際交流事業（③④の詳しい内容は報告書として来年度刊行予定）

①「移住の時代におけるアジア女性と家族の変容」（協力。８月21日、於韓国・梨花女子大学）

②「多文化家族と地域社会―日本・韓国・台湾における共生を考える」（協力。10月18日、於すてっぷ（とよなか男女共同参画推進センター））
③「大学と地域における女性学研究センターの役割：現状と課題」（現代GP。12月13日、於本学女性学研究センター）
④「ケアから考える新しい社会―歴史学／思想／社会学からのアプローチ」（梨花女子大学と共催。3月27日、於ドーンセンター）

6．男女共同参画事業

「働く先輩社員もホンネでトーク 2008」（10月14日、於本学学術交流会館）

7．図書・文献資料の収集

飯島愛子と「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」関連資料が資料編集を中心になって担ってこられた宮地佳子さんによって寄贈された（本誌に資料紹介掲載）。他は例年どおり、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。諸雑誌の購読も継続している。

8．その他

研究紀要『女性学研究』に査読制の投稿枠を設けた。大阪府生活文化部男女共同参画課が設立した「おおさか男女共同参画促進プラットフォーム」にセンターとして参加している。また、「日本女性会議2009さかい」が2009年10月30日から31日にかけて行なわれることになり、センター主任の田間がセンター代表で実行委員会に加わり、5つの分科会を統括する第3部会長となっている。

＊　＊　＊

今年度、センターは中百舌鳥キャンパスの総合教育研究棟という新しい建物の一角に場所を得て、ようやく、この数年間の大学統合にともなう忙しない環境から離れることができました。大阪府が新しい知事を迎え、男女共同参画政策が新しい知事のもとで大きく変更されるという厳しい状況

ではありましたが、センターはおかげさまで、ジェンダー関連授業やシンポジウムなど様々な事業を無事に終了しました。また、本誌に掲載されているように「飯島愛子関連資料」を寄贈いただきましたので、大変貴重な資料としてコピーを来館者が閲覧できるように整理しました。ご関心のある方は、お時間のあるときに是非お立ち寄り下さい。

センターは、「女性問題」だけでなく男女共同参画を念頭におき、授業や連続講演会・セミナーといった定例の活動以外に、新しいさまざまな取り組みを活発に行なっています。今年度に継続する予定であった大阪府からの受託調査は、新しい予算編成のために削減対象となり、実現がかないませんでした。この調査テーマは2006年度のシンポジウム「大阪の女性労働」からの継続課題であり、政策的にもワーク・ライフ・バランスや昨今の厳しい労働状況に深く関わるものであります。多くの方々にご協力いただいてきた調査でもあり、調査内容をさらに発展させようとしていたところでしたので、残念でなりません。来年度にはどのような形で取り組むことができるか、懸案を残しています。

しかし、昨年度も参加していた大阪府男女共同参画課による「おおさか男女共同参画促進プラットフォーム」へは引き続き参加し、参加企業の方々との交流によって、本学学生対象の就職活動イベント第二回を開催することができました。ご多忙のなかをご協力いただいたJCB、公文教育研究会、阪急阪神百貨店、ロック・フィールドの方々に心より感謝申し上げます。

そのほか、韓国・梨花女子大学、イタリア・トリノ大学、カナダ・トロント大学ともさらに交流を深めることができています。ジェンダー関連のゼミに集まる大学院生は、博士後期課程３人、前期課程６人を数え、連続講演会・連続セミナーや国際交流事業に触れ、またお互いに刺激しあって充実した研究を展開しているように見受けられます。

最後になりましたが、黒田研二所長がこの３月で、研究科長の退任にともないセンター所長から退かれます。黒田先生をはじめ、センター運営にご協力いただいた皆様に御礼を申し上げますとともに、今後もセンターの歩みにご同伴いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（田間泰子、伊田久美子）